

St. Luke's International University Repository

「老年期にある人々への看護」の学士課程における 教育内容と方法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): gerontological nursing, baccalaureate program in nursing, contents of education, teaching method 作成者: 太田, 喜久子, 田村, 正枝, 清, 真佐子, 小山, 眞理子, 菱沼, 典子, 村嶋, 幸代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/294

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



「老年期にある人々への看護」の学士課程における 教育内容と方法

太 田 喜久子¹⁾, 田 村 正 枝²⁾, 清 真佐子³⁾
小 山 眞理子⁴⁾, 菱 沼 典 子⁵⁾, 村 嶋 幸 代⁶⁾

要 旨

高齢社会と看護教育の大学化が進む中で、本論では老年期にある人々への看護を理解し探求するために学士課程でおさえなければならない、普遍的で基本的な内容を抽出し、教育方法を検討することを目的としている。

本論は、既存の関連文献を参照し、実際に老人ケアが行われている場の見学をし、老人ケアの専門家や介護する家族、保健福祉行政官らと意見交換し、さらに学生の準備状態を知るなどの検討過程を経てまとめたものである。

老年期にある人々の看護は、老人の価値観を尊重し、生活の質の維持向上をめざしたものであり、機能の衰退のプロセスにある老人それぞれの健康状況に応じた援助をさまざまな場で行うものである。

教育内容には、対象である老人の理解、老人をとりまく社会の動向と展望、および老人への働きかけが含まれる。

老人の理解では、個人差をとらえること、老人の機能の消極的側面ばかりでなく老人が自分でできる積極的側面も含めて理解すること、また老人の身体的、心理的、社会的側面を統合してとらえる視点をもつことを強調している。また老人をとりまく社会の動向では、老人が生活している社会の状況を理解した幅広い視野で看護を行う必要性を述べた。老人への看護の働きかけは、老人の生命、自立、誇り、および社会の4側面を網羅しながら個々の状況に合わせて行い、かつ老人を支援する家族、地域への働きかけも同時に行うようにする。

教育方法は、学習の順序性に則って、ケアの受け手の立場に立って援助を行う姿勢を身につけるように考慮した。

キーワードズ

老人看護 看護学士課程 教育内容 教育方法

1. はじめに

高齢社会の中で、社会のニーズに対応した看護を提

供していくために、老年期にある人々への看護の学問的追求と教育方法の探求が急がれている。

老年期にある人々への看護は、健康問題をかかえながらも老人がそれまで蓄積してきた生活を重んじ、その質をいかに保つかという、独自の対象の理解の仕方と働きかけ方を必要とするものである。

一方、現代の看護基礎教育の課題として、4年制大学では、広い視野をもち社会の変化に的確に対応できる基礎的能力をもつ専門職の育成の必要性が叫ばれている。また昨今の看護系大学の増設にともない、さま

- 1) 聖路加看護大学助教授 (看護学原理)
- 2) 聖路加看護大学助教授 (成人看護学)
- 3) 聖路加看護大学講師 (成人看護学)
- 4) 聖路加看護大学教授 (看護教育学)
- 5) 聖路加看護大学教授 (解剖生理学)
- 6) 東京大学助教授 (地域看護学)

さまざまなキュラムモデル開発の試みが多くの大学で行われている。

このような背景を踏まえ、本論ではどのようなカリキュラムモデルであっても、老年期にある人々への看護を理解し探求するために学士課程でおさえなければならない、普遍的で基本的な内容を抽出し、教育方法を検討することを目的としている。

また、本論をまとめるにあたっては、既存の関連文献や資料を参照し、老人ケアが実際に行われている保健、医療、福祉の施設を見学し、直接ケアを提供しているスタッフや管理者と話し合い現状を見聞した。また、老人ケアの専門家、老人を介護する家族、保健福祉行政官らと意見交換する場をつくり、老人ケアの現状と課題を考察した^{1)~4)}。さらに、教育を受ける立場にいる学生の準備状態を知るために、学生の老人への思い、老人看護への考えや老人看護教育への意見をアンケート調査⁵⁾⁶⁾により把握した。本論はこれらの検討過程⁷⁾を経てまとめたものである。

II. 老年期にある人々への看護のめざすもの

老年期にある人々への看護の特色をあげると、ひとつは、現代の援助を必要とする老人の多くが家庭で生活していることから、看護の働きの方は、従来の主な働きの方である施設を越えたものでなければならないということである。

さらに、老人はいくつかの病気をもちながら生活している人が多く、また人間の生理的機能自体が衰退していくことを考えると、その人の欠けている部分を問題とし、その欠けている部分のみを補うことで健康の回復をめざすような看護の働きかけには無理が生じる。すなわち、どのような健康状況にあっても、その人なりの生活の質が保たれていることが重要となる。そのため老年期にある人々への働きかけは治癒、回復をめざすキュア志向ではなく、生活の質の維持向上をめざすケア志向であるといえる。

また、老人はその人なりの生き方の上にたった、多様な価値観をもっている。それ故、その人の人生観、健康観を尊重した看護の働きかけのゴールは、看護婦によるゴールではなく、老人の生き方に合わせた、老人によるゴールでなければならない。

以上のことから、老年期にある人々への看護とは、老人の価値観を尊重し、生活の質の維持向上をめざしたものであり、機能の衰退のプロセスにある老人それぞれの健康状況に応じた援助をさまざまな場で行うものである。

III. 教育のねらいと学生に身につけてほしい能力

老年期にある人々への看護について教育する際、そ

のねらいとすることは次のようなことである。まず第1に、学生が老人の生き方を尊重し、老人と共に生きる社会のあり方を考えることができるようにすることである。看護の対象としての老人というだけではなく、同じ社会に生きる者同志として、老人のおかれている状況をとらえ、互いによりよく生きられるためにどうしたら良いのかを考えていこうとする姿勢をもってほしいということである。

次に、看護を行う立場であるからこそ求められることは、学生が老人のさまざまな健康状況を把握する力を持ち、適切な援助技術を用いてその老人にふさわしい健康、生活の場を整えることができるようになることである。さらに、老年期にある人々への看護に関して、学士課程では基礎的能力を養うことになるが、学生には将来大学院教育を受け、老年期にある人々への看護の専門家または教育者、研究者となるような志向性をもつことを期待したい。

老年期にある人々への看護の学習を通して、具体的に学生に身につけてほしい能力としては、以下のようものがあげられる。

- a. 自分自身の人生観、死生観、老人観を探る。自分が老人のもつ多様な側面を含めて老人をどう受けとめているのかを知る。
- b. 老人と関わるができる。老人との関わりに内的に動機づけられていて自ら老人と関わろうとする。
- c. 老人の立場に立った理解、家族の立場に立った理解をしようとする。自分の共感のセンスを常に磨こうとする。
- d. 老人と家族へのカウンセリングの基礎的技術をもつ。
- e. 老人の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえたさまざまな健康状態を把握し、評価する力をもつ。
- f. 老人の健康状態に応じた健康・生活への個別的な具体的援助技術を提供する力をもつ。
- g. 技術を生活の場に応じて柔軟に適用する。
- h. 既存の保健医療福祉に関する制度、組織の知識を踏まえたケアの質と継続性のためのケア管理能力、すなわち適切なケアの配分や資源の活用、および情報の提供ができるための基礎的能力をもつ。
- i. 多職種との共同、協調の仕方と、自分の責任のとり方を理解する。
- j. 老年期にある人々への看護に関して自分の意見を持ち、よりよい看護のあり方をめざしてものごとを変革していこうとする力をもつ。
- k. 老年期にある人々への看護、介護を社会で支援していく体制づくり（自助グループ、公的制度への働きかけ）に参与する志向性をもつ。

IV. 教育内容と方法

A. 教育内容

老年期にある人々への看護の教育内容には、対象である老人の理解と、老人をとりまく社会の動向に関するもの、および老人への働きかけの特徴に関するものがあげられる。

1) 老人の理解

老人の理解には、老人をどういう価値観でみるのかという老人観と、老人の特性をふまえたとらえ方が含まれる。

(1) 老人観

これは老いとは何か、生と死をどうとらえるか、という哲学的側面を考えることである。

学生は、自らの体験しているライフサイクルの中のみでは、老いを見つめることは不可能である。多くの学生は身の回りの老人や、社会の中の老人、また老人と接する人の態度、あるいは書物等から、各々の老人観を持っている⁵⁾。従って、老人の理解の学習では、各自の老人観を明らかにすることが第一段階と考える。この学習の中では、当初の老人観が変化したり、深まりや広がりが出てくるのを大切にし、看護の提供

者として、老人の生き方を尊重できる老人観を形成する必要がある。

(2) 老人の特性とそのとらえ方

看護の視点から老人を理解するには、老人を健康と生活の両側面から全体としてとらえていくことが必要である。その老人の全体像を的確に把握するために、老人の特性として知っていなければならない基礎知識を表1にあげる。これらは、老人を健康と生活の視点からアセスメントするときの参考となるものである(表1参照)。

老年期にある人々への看護における老人の理解のしかたやアセスメントの特徴として、強調することは以下の3点である。

- a. 個人差が大きい
- b. 積極的側面と消極的側面がある
- c. 身体・心理・社会的側面を統合して、その人の健康、生活をみる

すなわちひとつは、老人は個々人によって大きく異なる(個別性)ということである。そのため、既存の基準を画一的に当てはめることはできないということである。

次に、老人の積極的側面を見るということである。これは、老人の失われた機能やできない点(消極的側面)をアセスメントするだけではなく、老人自身ができること、潜在している力は何かという積極的側面も見ることという。学生に対して行った老人についてのアンケート結果⁶⁾からも、学生は一つの現象を肯定的にも否定的にも見るという柔軟性を持っていることがわかった。このような老人を両側面から包括的にとらえようとする学生の能力を育てていくことが重要である。

さらに、老人を理解する上で強調されることは、表1で示したような老人の身体・心理・社会的各側面が多様に絡まり合うことで、ひとりの老人の健康、生活のさまざまなありようが表われてくるため、3側面を統合的にとらえた視点を持つ必要があるということである。

2) 老人をとりまく社会の動向と展望

老人を対象に看護を行うためには、老人が生活している社会の現状と動向について理解を深める必要がある。これには、老人に関わる様々な政策・制度、老人をとりまく具体的なサービスシステム、全般的な老人の健康問題状況、老人の権利や尊厳に対しての意識などといった社会文化的背景が含まれるだろう。これらについての現状と課題、今後の方向性について理解することは、幅広い視野で老人をとらえ、看護の提供のあり方を考える視座を与えることになる。

表1 健康と生活面からとらえた老人の特性

1. 身体的

加齢による機能低下がある
(予備力、適応能力、ホメオスタシスの維持能力、刺激に対する反応等)
症状が潜在化しやすい
同時に複数の疾患を持っていることが多い

2. 心理的

多様な価値観・人生観・生きがいを持っている
老いを自覚する
死を身近なものとして認知する
知覚・認知力が変化する
心理的安定と不安定の間で揺れ動いている
自立と依存の間で揺れ動いている

3. 社会的

自分なりの生活様式を持っている
役割の変化・喪失を体験する
人との関わりが狭まる
経済力・暮らしの安定性が変化する
社会資源を活用する立場になる
性に関する社会的抑圧を受けやすい

3) 老年期にある人々への看護の働きかけ

前述した対象である老人の理解と同様、看護の働きかけは、老人の健康と生活を老人の立場からとらえる

表2 老年期にある人々への看護の働きかけ

1. 老人に対する働きかけ

1) 生命の維持と終焉

健康状態の把握と対応
最適健康の獲得と疾病予防への援助
健康回復、現状の維持や衰弱・死への援助
生きる意欲を支える援助

2) 自立の促進

自立と依存への対応
個人差やニーズへの対応
生活動作や行動力の維持に関する援助
心理的な支援

3) 誇りの尊重

自尊心の尊重
個としての尊重（プライバシー）
意志・権利の尊重、自己決定権の尊重（インフォームドコンセント）
価値観に対する配慮

4) 社会とのつながりの重視

生活指導、生活援助
生活の質の向上への援助
積極的な生き方と個人的な生き方への援助
生きがいややりがいを重視した働きかけ
人や社会とのつながりを尊重した働きかけ
人や社会とのつながりの調整
社会貢献への援助
役割の変化・喪失に対する援助

2. 老人の支援体制に対する働きかけ

1) 家族への援助

家族の介護能力のアセスメント
介護に必要な知識・技術の提供
家族内の調整
社会資源の活用・福祉との連携

2) 地域への働きかけ

高齢化社会に対する地域住民の啓蒙
生活環境の整備（安全など）
ケアの継続のためのシステム
自助グループ（患者会・家族会）への援助
社会資源の開発・システム作り

視点をもつものである。老年期にある人々への看護の具体的な働きかけの特徴を表2に示した（表2参照）。

これには老人に直接働きかけるものと、老人の周囲にいる家族や地域社会などの支援体制を強化することで間接的に働きかけるものが含まれている。

(1) 老人に対する働きかけ

老人の健康と生活への援助を老人の個別性を重視して行うことを考えると、老人への働きかけには、「生命の維持と終焉」「自立の促進」「誇りの尊重」「社会とのつながりの重視」という4つの側面が考えられる。

まず「生命の維持と終焉」では、健康状態の的確な把握と対応、その人にとっての最適健康の獲得および疾病予防への援助、また健康回復に向けて働きかけるのみではなく現状の維持や衰弱・死への援助をも含めた働きかけ、生きる意欲を支える援助などが考えられる。

次に「自立の促進」では、老人の自立と同時に依存をも含めた対応、個人差やニーズへの柔軟な対応、生活動作や行動力を維持するような援助、心理的な支援などが考えられる。

「誇りの尊重」では、自尊心の尊重、個としての老人の尊重（プライバシー）、自己決定権を含めた老人の意志・権利の尊重（インフォームドコンセント）、価値観に対する配慮などが考えられる。

最後に「社会とのつながりの重視」では、生活指導を含めた具体的な生活援助、個の生活の質の向上に向けての働きかけ、積極的な生き方と同時にその人にとっての当たり前の生き方への援助、生きがいややりがいを重視した働きかけ、人や社会とのつながりを尊重し時にはそのつながりを調整する働きかけ、老人自身の社会への貢献を考慮に入れた働きかけ、役割の変化・喪失に対する働きかけなどが考えられる。

以上4つの側面は、すべての老人への働きかけに共通するものである。と同時に、対象となる老人の健康と生活の状況によっては強調される側面が異なってくるものでもある。このように老人それぞれに固有の働きかけを行っていくのである。

(2) 老人の支援体制への働きかけ

老人の支援体制への働きかけには、老人の身近にいる家族への援助と老人が生活している地域への働きかけがある。

a. 家族への援助

老年期にある人々への看護では家族も援助の対象である。なお、本稿では家族を夫婦・親子の関係のみでなく、その老人の介護に携わっている重要他者を含めて広くとらえるものとする。

まず、家族の健康状態のアセスメントを含めて家族の介護力をアセスメントし、家族がその老人の介護を

継続していきけるだけの能力を、身体的にも時間的にも経済的にも有しているかどうかを確認しておかねばならない。その上で家族に対し、介護用品などについての情報提供を含めて、家庭での介護に必要な知識や技術を提供することになる。また、誰がどのように介護するかをめぐって、家族内の調整が必要になることもある。

家族だけでは介護が出来ないと判断した時や、その老人と家族の必要性に応じて、人的、物的、経済的サポートなど種々の社会資源を十分に活用する。そのため、老人福祉の担当窓口や、デイケア、ショートステイ等を行っている各種福祉施設との連携を常に保つことが必要である。

b. 地域のシステム作り

老人が地域で自立して生活していけるようにするためには、地域住民による協力が必要となる。地域住民に対しては高齢社会についての啓蒙活動を行うことによって、地域住民一人一人が自ら老人を支援するという意識を高めることが重要である。また、老人にとって安全で快適な生活環境が提供される必要があり、これらの整備促進に対し看護者が積極的に発言していく姿勢が求められる。

老人の健康レベルに応じて生活の場が、地域から施設へ、施設から地域へと移動するとき、老人の適応を促すためにケアを継続したり情報を共有する事が重要である。そのために、施設と地域とを有機的に結びつけるためのシステムが必要となる。また、全てを公的サービスのみに頼るのではなく、同じ境遇にある人の支え合いの場を設定していく。即ち、家族会・患者会などの自助グループ形成への援助である。このような場で当事者の声が出されることによって、地域で不足している社会資源を明確にしていけることができると考える。また、これを実現していければ、それは、新しい社会資源の開発・システム作りにつながっていく。このような積み重ねによって、当事者の意見を尊重できる社会、共に生きられる社会につながっていくことができる。

B. 教育方法

上述してきた老年期にある人々への看護の教育内容の学習方法として、ここでは学習の前提条件となること、教育内容の原則的な順序性、さらに教授学習上の工夫について述べる。

1) 学習の前提であり、学習を促す条件

老年期にある人々への看護の学習をより深め、より効果的に行うために、次のような能力育成のための学習が先行学習、または同時進行で計画される必要があると考える。

- a. ライフサイクルにおける成長・発達・成熟年齢の変化に伴う身体的・心理的・社会的変化
- b. 健康、疾病、病気の概念
- c. コミュニケーションや人とのかかわり方についての理論や技術
- d. グループダイナミックスや家族関係論

2) 教育内容の順序性

教育内容の全体的な順序性は、以下に例示するように、学生にとって身近な内容から未知のことへ、また教育内容の単純なものから複雑なものへという学習の原理に則ってすすめることが効果的であると思われる。

学習の原理 1 : 身近な内容から未知のことへ

(例) 学生の老人観を養う場合の順序性

Step1 : 学習を始める時点で学生自身の老人への思いやイメージを自分で見つめる。



Step2 : 老人と出会う、話し合う。



Step3 : 多様な考え方があることを知った上で、自分なりの老人観を養う。

学習の原理 2 : 内容の単純なものから複雑なものへ

(例) 老人の理解と働きかけを学習する場合の順序性

Step1 : 健康のレベルや生活の自立度が高く、生活支援体制が整っている老人の理解と働きかけ



Step2 : 健康のレベルや生活の自立度が低い、バランスがとれていない、または生活支援体制が整っていないという複雑な状況にある老人の理解と働きかけ

このような順序性で老年期にある人々への看護の学習が進むように、4年間の学士課程の中で配置されることが望ましいと考える。

3) 教授学習方法の工夫

上記の学習の順序性に沿って、次のような具体的な教授学習方法の工夫を適切な時期に用いると、学習効果をより高めると考える。

- a. 地域に住む健康な老人へインタビューをする。
(老人の生活史をきき、その人の考え方や役割の変化などについて尋ねる。)
- b. インタビューをもとに老人のライフレビューをまとめる。
- c. 老人へのインタビューを通して、ライフスタイルの変化に対する老人の対処パターンを理解する。
- d. 身体の老化の疑似体験をする。
- e. 老人や介護者のグループに参加してグループの目的・課題・意味を理解する。
- f. さまざまなケアの場での体験学習を多く取り入れ

る。(保健医療施設, 福祉施設, 家庭での演習・実習, 等)

- g. 施設見学や他職種へのインタビューを通して, それぞれの役割と連携を学ぶ。(OT, PT, 介護福祉士, 社会福祉士, 医師など)
- h. 学生の個人的体験や介護者の体験から, 老人とのかわり方や介護のコツなど, 具体的な方法を学ぶ
- i. 生活援助技術を開発する (施設での技術と家庭での技術の共通性と相連を学ぶ)
- j. 老人や介護者が活用できる社会資源を探る。

これらの教授学習方法の工夫の基本的前提には, 老年期にある人々への看護は何よりもケアを受ける当事者である老人と家族の立場に立ったものであり, 当事者にとってどのような援助が必要かという視点をもつべきであるという考えがある。そのため教授-学習方法は, この基本的姿勢を身につけることを促すものが求められる。

V. おわりに

本論では, 老年期にある人々への看護に関して, 学士課程で何を教育する必要があるのか, またどういう教育方法を行ったら良いのかについて, 基本的な重要事項の抽出を試み, その考え方を述べてきた。

激しい社会の変動を考えると, 老年期にある人々への看護の学問的追求と教育内容, 方法の探求は急務である。今回の結果を踏まえ, 今後さらに教育内容と方法を検討し, 実際の教育課程で活用できるように具体化し, その効果を測定するように継続していく必要がある。また老年期にある人々への看護の教育を具現化する際, 本論が, 基本的な考え方として参考 to 供する事ができれば幸いである。

なお本論は, 平成4年度長寿社会福祉基金による研究助成を得て行われた研究活動の一部である。

＜引用文献＞

- 1) 田中久美子, 太田喜久子: 老人ケアの今日的課題 4 施設の実践紹介 第1回, 青梅慶友病院の場合, 看護, 45(12), 171-178, 1993.
- 2) 森山洋子: 老人ケアの今日的課題 4 施設の実践紹介 第2回, 渋谷区老人ケアセンターの場合, 看護, 45(13), 157-165, 1993.
- 3) 中村ひとみ: 老人ケアの今日的課題 4 施設の実践紹介 最終回, 老人保健施設, 訪問看護におけるケアの実状と課題, 看護, 45(15), 137-141, 1993.
- 4) 永島光枝: 老人ケアの今日的課題 4 施設の実践紹介 最終回, 家族会としてのケアの実状と課題, 看護, 45(15), 142-146, 1993.
- 5) 菱沼典子他: 看護学生の老人イメージについての一考察, 看護教育, 1995年掲載予定.
- 6) 小山真理子他: 看護大学学生の老化・老人に対する態度, 看護教育, 1995年掲載予定.
- 7) 太田喜久子他: 看護学士課程における老人看護学の教育内容と展開方法の検討; 日野原重明, 高齢者等の在宅療養支援のための調査・研究事業報告書, 平成4年度長寿社会福祉基金による研究助成事業成果報告書, 54-109, 1993.

＜参考文献＞

- Davis, D.K.: Curriculum models for gerontological nursing, National League for Nursing, 15(2151), 29-45, 1986.
- 菱沼典子他: 大学における看護教育カリキュラム 第1部, 聖路加看護大学カリキュラム試案の基礎, 日本看護科学会誌, 10(2), 49-57, 1990.
- 菱沼典子他: 大学における看護教育カリキュラム 第2部, 聖路加看護大学カリキュラム試案の紹介, 日本看護科学会誌, 10(2), 58-67, 1990.
- 伊藤暁子他: 「老人看護」の領域において求められる看護婦の能力と必要な教育内容, 看護展望, 15(11), 56-66, 1990.
- Lee, J. L., Cody, M.: Gerontologic education Insearch of a core curriculum, Journal of Gerontological Nursing, 13(7), 12-17, 1987.
- Malliarakis, D. R., et al.: Is gerontological nursing included baccalaureate nursing programs?, Journal of Gerontological Nursing, 16(6), 4-7, 1990.
- Nelson, M. K.: Geriatric Nursing in the baccalaureate Curriculum, Journal of Gerontological Nursing, 18(7), 26-30, 1992.
- 吉田時子他: 看護基礎教育における老人看護の教育に関する調査, 看護展望, 11(3), 16-32, 1986.
- 吉田時子他: 老人看護学の教育内容に関する研究, 看護展望, 11(3), 24-29, 1986.

The Content and Its Teaching Method of Nursing for the Elderly in Baccalaureate Program

Kikuko Ota, Masae Tamura, Masako Sei,
Mariko Koyama, Michiko Hishinuma, Sachiyo Murashima

Purpose: The study is intended to examine the content of gerontological nursing for the baccalaureate program in nursing and to review its teaching methods.

Methods: Articles and books were reviewed extensively, information was gathered from various gerontological health professionals and family caregivers were interviewed, and a survey was conducted by questionnaire on the students' views of the elderly people.

Results: The contents of gerontological nursing education included features of the elderly, trends of social situations for the elderly and characteristics of the gerontological nursing approach. Features of the elderly mean a comprehensive understanding of the elderly including physical, psychological and social aspects. Characteristics of gerontological nursing included assistance for the elderly, assistance for families, and intervention for the organization which supports the elderly. In providing assistance to the elderly, it is necessary to be sensitive and to respect their life, independence, dignity, and relation with society.

The teaching method of gerontological nursing education should be organized according to the principles of learning, that is, from familiar subjects to unknown subjects, and from simple to complicated ones.

For future study, a detailed examination of the contents and methods of gerontological nursing education is needed.

KEY WORDS:

Gerontological Nursing,
Baccalaureate Program in Nursing,
Contents of Education,
Teaching Method